

## 令和6年度第2回埼玉県立近代美術館協議会会議録（抄録）

- 1 開催日 令和7年2月27日（木）
- 2 時間 午後2時00分～午後4時00分
- 3 場所 埼玉県立近代美術館3階会議室
- 4 出席委員 秋本 文子、森田 豊、寺久保 文宣、岡野 啓子、青木 聖吾、  
井口 壽乃、代田 一貴、谷口 周子、野中 味恵子、  
山田 志麻子、吉野 律
- 5 欠席委員 山田 明子
- 6 事務局出席者 

館長	建畠 哲
副館長	藤倉 陽子
副館長	平野 到
総務・管理担当部長	栗林 雅志
常設展・収蔵品担当主任学芸員	大浦 周
企画展担当主任学芸員	吉岡 知子
教育・広報担当課長	平井 良子
教育・広報担当課長	岡村 安佑美
総務担当課長	宮田 美香
総務担当主任	佐藤 耕史
- 7 教育局出席者 文化財・博物館課文化財活用・博物館担当 主査 鈴木 裕一
- 8 進行の概要
  - (1) 開会
  - (2) 館長挨拶
  - (3) 協議会委員および美術館職員紹介
  - (4) 会議録署名委員指名  
会長から署名委員として山田志麻子委員、吉野律委員が指名された。

## 9 議事の内容と質疑応答

### (1) 報告事項・意見

#### ア 令和6年度事業報告

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数について報告を行った。

#### 【主な質疑応答等】

委員 本当に多岐にわたる事業展開で素晴らしいと思う。特に私は福祉に携わっているのですが、視覚障害者対象の鑑賞ガイドに取り組んでおられることについてお聞きしたい。説明で興味を持ったのは手で絵に触れるようなもの（＝触図）を作ったのが素晴らしいと思った。

次に、ファミリー鑑賞会について、親子でいると家の中で行き詰ってしまうことがあるので、どこか外に居場所が欲しいと思う。その中の一つとしてファミリー鑑賞会というのは素晴らしいと思う。子供を預かるのは、親のストレスが少しでも解消されて、一時だけでも心が癒されるととても良い取組だと思った。

委員 比較的若手の作家を取り上げているアーティスト・プロジェクトについて、チラシ以外に何か記録のようなものは作られているか。

事務局 かなり限られた予算で運営をしているため、美術館で記録集や図録が作成できれば良いがそこまでに至っていない。出品作家の方が御自身で助成金等を申請し、それを活用して記録集を作る動きがあると聞いている。今後は、可能な限り記録を残すようにしていきたいと思う。

委員 若い方はこういった素晴らしい美術館で個展をしたことが実績として大きな力になると思う。そういったものがあると良いなと思う。

委員 アーティスト・プロジェクトについて、今回初めてチラシを作成したのか。初めて綺麗に作られているチラシを見たが、やはりこういうものがあるとすごく助かる。

事務局 概ね毎回作成している。

委員 今年の吉田克朗と木下佳通代の展覧会について、私自身、中学校・高校と美術を始めた頃に色々な美術の教科書やメディアで見たような記憶がある。

非常に身近に迫ってくるというか、その時代の作家たちの繋がりであったりとか、図案みたいなものをこちらでリアルタイムに感じて興味深く拝見した。

これらの展覧会について、例えば一般の方へのアピールやフィードバックは企画者としてどのように認識しているか。一般的にはいわゆるネームバリューのある作家というか、本当に一般の方にとってはきっと身近ではない方もいらっしゃると思う。そのあたりについて、他の企画とは違ったフィードバックというのはあったのか。

委員 貴重な御意見をありがとうございます。確かに吉田克朗も木下佳通代も制作を始めたのは60年代、70年代で50年以上前の事になるが、その時代の美術というのは必ずしも分かりやすい美術ではなかったりもするので、できるだけ噛み砕いて一般の方に紹介することは非常に重要なことだと考えていた。どちらの展覧会もできるだけ関連イベントを積極的に開催した。吉田克朗の場合は、先程紹介したミュージアム・シアターと連動する形で、美術だけでなく別の視点からも鑑賞できるよう、身体をテーマにしたダンスイベントも開催し、それを基に吉田克朗の展覧会を見てもらうような工夫をした。木下佳通代展も関連イベントを盛り沢山に考えた。そういった形で少しでも言葉で伝える部分を増やそうという努力をした。

アンケートに関しては、資料にもいくつか載せているが、好意的な意見が多く、作家の全貌が良く分かったというものや生涯を通じてどういう制作をしたのか分かったという御意見をいただいている。できる限り我々も難解な美術に関しては、上手に説明をする必要があると思っている。

委員 私自身、木下佳通代さんを認識していなかったが、今回初めてこれだけ総覧できたというのは非常に面白くて、友人作家も何人も見に行ったらしく、すごく良かったという感想が多かった。

作家側としてはこういったリアルタイムな進行形、亡くなっている方ではあるが、自分自身が関わっている時代の展示が大きな企画展のスポットであると美術館の面白さとして伝わってきて興味深く拝見できて良かった。

事務局 吉田克朗も木下佳通代もその時代には非常に高い評価を受けていて、決して無名の作家ではないが、我々の世代にとってはそれをリコンシダーする(=reconsider・再考する)というか、改めて新しい視点でピックアップして取り上げようとした。木下佳通代の方はもちろん大阪の中之島美術館が先行したが、受け取る方から見るとリコンシダーではない。多分、吉田克朗の作品も木下佳通代の作品も若い世代は全く知らなかったと思う。そういう意味ではこんな作家がいたのかという発見、つまり我々にとってはリコンシダーであるけれども、若い人にとっては発見であって、「そうだったのか」、「そういう人がいたのか」という声を何人かから聞いた。美術館の常識というよ

りも一般社会では、「思わぬ人がいる」、「思わぬものがあつた」という素晴らしい作家の発掘というイメージになつたと思う。ただ、これはそういうことを狙つてやつたわけではない。我々にとっては非常に有名な作家であるが、発掘的なところでは美術館にはそういう機能もあるんだなと思つた。

委員 県の美術館としては、有意義な企画だつたと思う。これから進行形で、そういう埋もれてゐる作家たちもきつといると思うので、それも美術館の関わりには重要な存在となつていくと思う。

委員 添付資料の開館以来の入館者数一覧を拝見して、平成元年から令和元年までは大規模な工事を除けばだいたい20万人ぐらいの年間利用者がいるのは素晴らしいなとお見受けした。コロナがあつてグツと落ち込んで、今、回復傾向にあるのかなと思うが、コロナ前にはまだちょっと届かないように読み取れる。今後は、足を運んでいただくことが非常に大事になってくると思うが、何かお考えになつてゐることや今年度の評価や総括があれば参考にお聞かせいただければありがたい。

委員 先に質問が出てしまつたので、開館以来の43年間の入館者数一覧の資料について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 この資料は、前回の協議会で長期的な入館者数の推移が見られるものがあれば良いという御意見があつたため、それにお答えする形でお配りした。委員のお話のとおり平均すると年20万人前後で推移しているが、コロナを経てまだ20万人の域には達してゐないところである。これから人口減少や高齢化が進むため多くの県民の方に来ていただく機会を更に増やさなくてはいけないと考えている。特に、教育普及に力を入れることと、先程の委員の御意見にもあつたように一般の方になかなか馴染みがない作家については、例えば、吉田克朗展では資料7ページの囲みにあるように9月23日にクロージングイベントを開催させていただいた。これは当初予定してゐたものではなく、吉田克朗氏の御遺族である御長男と御次男の協力をいただき、急遽シンポジウムという形で開催したものである。当館は近現代の作家を中心とした美術館であるので、作家本人に縁のある方や親交があつた方などから、機会を捉えて作家本人の人となり等も紹介させていただければと考えている。

委員 ちなみに来館される方が県内なのかあるいは都内なのか、それからどれぐらいのパーセンテージの方がいらつしゃるとか、昨今の埼玉県ですと韓国、台湾の方の滞在が増えている中で外国の方がいらつしゃるのかなど、内訳はわかるか。

事務局 外国の方の正確な内訳は把握しきれていないが、体感としてはコロナ前に戻つつあると思う。また、県内・県外というお話については、中心としては県内、特に南部の方から来館される方が多い。その次の次くらいが都内もしくは県外の方からという割合であると捉えている。

委員 パーセンテージは分からないということか。

事務局 そうですね、企画展や常設展の内容によっても異なるところがある。アブソリュート・チェアーズ展や木下佳通代展のように他県の巡回展という形だと一緒に見ようという方が多く、今年はなかったが、神奈川の県立近代美術館とコラボするということもあり、そうすると神奈川の方が多くいらっしゃるような展覧会もある。

委員 外国の方のカウントというのはすごく難しい。私共の美術館でも数字を出すのに苦労している。当館では、券売のところでコミュニケーションを取る際にどこの国かは分からないため感覚にはなるが、日本語でのやり取りの可・不可で外国の方であろうということを受付の方がカウントしているため、日毎に分かるのでそれを蓄積すると何%なのかが分かるという形で算出している。おおよそという形でやらざるを得ないのが正直なところである。そういったことで地方率の%を出しているので少し負担にはなるがご参考まで。

また、新しい来館者を増やすという取組について拝見したところHPやX、Facebook、Youtube についてはアカウントをお持ちのようだが、Instagramがない。自分の所属では、もう Facebook やXは年齢の高い人しか見なくなってしまったので Instagram を利用しており、Instagramの方が倍くらい閲覧者数が多い。Instagramを見て展示を見に来るというアンケート結果も出ているので、もしそういった吉田克朗や木下佳通代などの新しい発見ということを若い人に提供するという点においてみれば、Instagramの使用というのは非常にもしかしたら何か役に立ってくるのではないかと。同じコンテンツを載せていけばいいので、そういったことも検討いただけたらいいかなと思う。

委員 2点あって、まず1つ目は、開館の取組に本当に感謝したい。来館者の専門性の有無を超えた幅広いニーズに応えるような数多くの取組があり、美術を中心として色々なものと連携しながら、美術の広がりや深まり、可能性を追求してくださっていると感じている。12月の障害者向けのイベント（障害者アート・フェスティバル）について某新聞に出ていたり、足尾銅山を描く作家の方の展示（一般展示室の展覧会）も新聞で紹介されていて、近代美術館が頑張っているなど感じていた。多様性と言われている時代に、そうい

う多様な方々を受け入れようとしている姿勢を感じたので感謝申し上げます。

2つ目は、ボランティアについて質問したい。自分も20年以上前に国の施設でボランティアの担当者として働いていた。その時、既にボランティアの高齢化と担い手不足があった。現在も私自身いくつかボランティアをしているが、本当に人がいない。社会全体にも言えることだが人がいない。この美術館の登録ボランティアの人数と年齢層について伺いたい。

事務局 ボランティアの人数については資料21ページと22ページに現在の人数を記載している。ボランティアには3つのジャンルがありそれぞれ登録人数が異なる。確かに、ボランティアの方の年齢が徐々に上がっているという状況で、我々もできるだけ若い世代にも入ってもらえる方法を考えなくてはいけないと思っている。例えば、(2)の教育普及サポートスタッフは、どちらかというと教育普及の色々な活動をサポートするスタッフなので、学生も含め年齢層が割と若い方も含まれているが、常設展のガイドを行う美術館サポーターは、若干年齢が上に上がってきているので、今後再募集をかけて若い人にも入っていただけるよう努力をしなければいけないと思っている。

#### イ 令和7年度事業計画(案)

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用について説明を行った。

#### 【主な質疑応答】

委員 昨年度の報告の中でも感じたが、コレクションの活用の密度がすごく高いなと思っている。例えば、木村直道の展示では、これまでの彼のユーモラスという点に加えて、詩とか画集の構想などから彼の文学的な要素を掘り起こしたり、光の当て方のようなものがコレクション展の中でストックされていることが素晴らしいと思った。特に来年度の展覧会は、コレクションを基にしたものが多いなと感じている。Nerholも今本当に上り調子の人気の作家の展示だが、おそらく寄託作品があるとか、これまで展覧会で発表されたということが確実に効果的になっているのだということ、斎藤与里を40点お持ちだということからこういう展覧会に結びついていくんだなと思った。

また、先ほどの事務局の説明でリコンシダーと発見とおっしゃったように、世代や美術家など、色々な来館者の方がいる中でそのバランスをよく図られているなど感じ、楽しみだと思っている。

委員 「日曜美術館」を時々時間があって拝見している。副館長が出ている時があって感動した。

委員 「日曜美術館」といえば、Nerhol が確か少し紹介されたことがあると思う。

事務局 去年の千葉市立美術館での個展の際の放映だと思われる。

委員 きっと入館者数も増えることが期待できると思う。ちょうど Nerhol の会期が7月の夏休みに入る。平面と立体のユニークな制作方法の現代作家だと思うので、ワークショップなど工夫して子供の教育等々、展覧会と併せて展開されたらよろしいと思う。とてもいい作家の展覧会で楽しみにしている。

委員 令和6年度の事業の最後でお話されていた、学校との連携事業の公募展「みつめて、かんじて、たべてみて！」について、作品が実際にアイスクリームになったというのは本当に子供にとってもわくわくするような経験の場だと思うので、ぜひ学校との連携について、来年度もわくわくする企画を進めていただけたら良いと思う。

あと、日曜美術館について、自分の高齢の両親も毎回見ることを楽しみにしている。番組の最後にある展覧会を紹介するコーナーの影響も結構大きいので、ぜひPRにも取り組んでいただけたらよいと思う。

事務局 先程ご紹介した公募展は来年度も実施する予定。また素晴らしいアイデアの作品を子供たちが応募してくれると思うし、試食会も企画していきたい。

委員 学校との連携について、学校の子供たちを連れてくるには大型バスで来ることになると思うが、駐車場はあるのか。

事務局 駐車場は、大型バスが入れる園路がある。そちらを利用される学校もあり、受け入れている。

委員 駐車場があると選択肢の一つとして美術館を選ぶことができるので、駐車場あり・大型バス可と書いていただけると学校側も近代美術館を入れ込んでみようと思えることができる。

それから先程南部の方からお越しになる方が多いという話があった。自分も北部に住んでいるが、北部は車社会であり、駐車場がないとなると車1台で来られるところに、電車に乗ってくることになるので気持ちとして来やすさに違いがある。電車の方が楽だが家族で来るとなるとそれなりの費用もかかる。その点では地域のデパートなどと連携する割引があると家族で1台で来られるのかなと思う。来館者を増やしたいとなるとそういう方法も一つかなと思う。

事務局 専用駐車場はないが、国道17号沿いに美術館の提携駐車場がある。そこに停めていただくと料金が割引になる制度がある。そういったところも今後、いろいろと発信していけたらと思う。

事務局 メキシコ展のチラシの裏側の下部にも提携駐車場のことが書いてあるので、次回はぜひ御活用いただきたい。

#### ウ 博物館評価について

事務局から会議資料を使用して、1月末現在の博物館評価の評価結果について報告を行った。

#### 【主な質疑応答】

委員 あれだけ多岐にわたる活動をしていて、またこういう細かい振り返りがあるというのは素晴らしいと思う。

質問だが、6ページの館別独自項目の1番の企画展の達成率が57%で1月末において横ばいというお話があったが、目標値に対する達成値なので何とも言えないと思うが、どんな風な受け止めをしているか。

また、来年度の企画展について楽しみだと思ったが、企画展を企画するやり方について伺いたい。巡回展で回ってくるものをチョイスすることもあるだろうし、独自に企画してくることもあると思う。その辺りについて、入館者数も含めて、どんなことをしたら人が来てくれるだろうと考えると思う。企画展に対する要望をどのようにリサーチしているか、アンケートを読ませていただくのととても評価しているものが多かったが、人数が横ばいになっていることも含めてその辺りの考えをお聞きできればありがたいと思う。

事務局 まず、企画展の目標達成値というのは、どこかで見直す必要があると感じている。これは過去の5年間の1日平均の人数を割り出して、展覧会の内容に関わらず、過去の実績で機械的に積算しながら、次の年はこれくらいの目標という形を設定している。そうすると過去のある年にもものすごくお客さんが入った展覧会があると自動的にその数値が上がってしまう。これは予算とも連動しているので、そういう組み方をしている。かつては、同傾向の展覧会を過去にやっていたらその数値を参考にして年間の目標を立てていた時期もある。現在は同傾向の展覧会というよりも過去の自動的な平均値を基に積算しているので実態とズレてしまうことがある。そこがなかなか難しいところである。目標値がなかなか達成できない面はそういったことも考えられる。

もう一つ、企画展のラインナップについては、アンケートなどで来館者が関心を持っているものを学芸部内で共有する。同時に年間ある程度の観覧者数を見込まないと歳入予算が厳しくなるので、それを試算しながら、全体的



に展覧会の内容が偏らないように美術館の中で議論しながら決めている。もちろん他館の方から一緒に巡回展をやろうということで共同研究でやるものもあるし、逆にこちらの美術館から他館に呼びかけることもある。先程委員からも御意見があったが、年間の展覧会スケジュールを色々な観点から楽しめるようにバランスよく組むことは重要だと思っている。かつては、年間5本の展覧会を行っていて、その5本の中で、日本画の傾向のものをやったり、デザインのものをやったり振り分けることができたが、現状では予算上だいたい3本くらいの展覧会で、その3本の中でバランスを組むというのは非常に難しい。我々としてはむしろ数年間の中でバランスよく組んでいくということで、県民の方にも色々な傾向の美術に親しんでいただきたいと意識しながら展覧会を組んでいる。

委員 良く分かった。良いと思うことはブレることなく、数年の中でバランスを取ってとおっしゃっていたがそういうことで達成していくという考えが分かって、私もそのとおりで良いかなと思う。

委員 学校に関わっている立場から、館別独自項目の中の学校利用という項目に利用校数30校とあるが、学校の現状からいくと、バスの代金が非常に高騰していてバスによる施設見学というのはやりにくくなっている状況がある。これまでは秋に遠足と社会科見学を別々に設けていたものが、両方合わせて1回で済ませるようになってきている。利用数が減っていくのはやむを得ないだろうと思う。また、学校側のニーズから考えても、この項目をこのまま残していくことが本当に指標として適切かどうかというのは疑問に感じる部分でもある。

逆に、3番の学校での鑑賞授業の回数であるとか、夏から秋にかけて子供たちを対象にした色々な企画等を実施していただいている内容を聞くと、本校の美術部の生徒や夏休み中に鑑賞の課題として美術館に行ってそのレポートを出してもらったものを見ると、結構な数の子供たちが足を運んでいる。そういった児童生徒が単独あるいは家族と来館した場合にそれを数値として取り上げていくようなそんな一文を加えていただくと学校の状況に合った数字になっていくのではないかなと思う。

中学校には色々なパンフレットやポスターを送付いただいているので、美術室前や廊下に掲示しているが、結構な子供たちが関心を持って見ている。ポスターの内容によっては食い入るように見ており、どうやったら見に行けるかというような質問をする生徒もいる。単純に学校の利用校数だけではない項目等を今後設定していく必要があるのかなと思う。学校が今後バスで移動して見学をするという項目を削る方向に動いている。また、学校数自体も今年度末でものすごい数が統廃合によって減っていく。そういった状況を踏まえて今後見直していく必要があるかなと思う。

一番は教育普及担当の皆さんがその辺りの実感を持っていて、実績の数字との兼ね合いも感じている部分もあると思うので、ぜひ御検討いただければと思う。

子供たちは公募展を大変楽しみにしていて、去年のアイスクリームの作品は衝撃だったようで、参加した子供はみな口々に来年応募するにはどうしたらいいかと、美術部の子たちを中心にかなり話があった。

委員 美術館に入館者数一覧の資料を出していただき感謝する。確か前の会議の際に累計の入場者数が分からないとここ数年だけだと何とも言えないと自分が言ったような気がする。こうやって見ると長い歴史の中で皆さんが頑張ってくださったんだと思う。これを見るとおよそ20万人ぐらいの入館者数を設定していくというのは今の段階で妥当なのではないかと思った。

昔のバブルの頃は相当人もいるのではないかと思う。埼玉県立近代美術館はできた頃から何というか展覧会の内容が最先端で格好良い。こういうのをやるともっと人が集まるような展覧会というよりは、こういったものが本物なんだというような、私たちの業界で言う激シブというのか非常に渋い内容をされている。今もそうだが。

私は団体展や県展にも関わっているが、以前は延長上でやっていたものが、12～3年前くらいから少しずつ昔のようにはいなくなってきたという実感を持っている。コロナはとどめのような感じを受けた。その中でここに出していただいている資料を拝見するに頑張られているなどと思う。入場者数の内訳を見ると、何となく企画展が3、一般展示室の使用が2ぐらいの数字だと見えてくる。例年ずっとそういう推移でいらっしやったのかなと思う。

目標値というのは美術館で立てるのか。埼玉県の方からこれくらいにしてくれという指導があるのか。

事務局 入館者数については、埼玉県教育振興基本計画に載っている数値となる。

委員 県の計画に載っているのであればそれはそれで結構なんじゃないかと思う。あと、他県にも埼玉県と相当同じぐらいの規模の美術館がある。埼玉県の場合どうしても東西と真ん中に分かれるためアクセスの問題があると思うが、千葉にも横浜にも栃木にも群馬にも美術館がある。そういうところの観客動員数と比べてどうかという分析はしているのか。

他所は他所、うちはうちという考え方もあるが、そういった組み立てみたいなものもあっていいかなと思う。世の中見ているとどんどん予算が削られていって、そのうちに独立採算でやってくれと言う時が来るのではないかと思う。

委員 関連した質問として、他県の美術館と比較するというのは地理的な問題もあって難しいかと思うが、6ページにあがっている全館共通項目というのが、例えば大宮にある県立歴史と民俗の博物館等の評価と比較することはできるか。

現状を全く存じ上げていないので分からないが、利用状況など感覚的にはいい線いっているのではないかと私は思う。大宮は街自体が大変大きいし、利用者も多いのではと思った。内容的に美術館というのと歴史博物館というのではまた違いますよね。

事務局 ある程度の数字は分かる。

事務局 例えば、(1)の全館共通項目の1番上の年間の入館者数とアウトリーチ数の目標値について、203,000人とある。これは埼玉県教育委員会が定めている埼玉県教育振興基本計画では計画期間が令和6年度から令和10年度までの5年間で、最終年度までに当館を含めた美術館・博物館施設全体で入館者数100万人を目指そうというものである。展示室の規模や交通のアクセスなどが異なるため、一律に平均値を目標値にしているわけではないが、近代美術館としては203,000人を目標値としている。

事務局 他県の美術館との比較という非常に貴重な御意見をいただいた。数字はたぶん比較することができるが、色々な美術館の運営形態があり、こちらは有料で美術館が主体的に展示を行う常設展示室や企画展示室がある他に、一般展示室という割と大きな器を持った貸館をやっている。そういう機能を持たない美術館も結構ある。

もう一つは、無料スペースを美術館の中にどれだけ持っているかということもある。そういった条件の違いもあるので、それらを加味しながら今後多角的に比較していくことが必要だと考えている。

委員 こういうことをお聞きするのは非常に難しいことは重々分かった上での質問だが、収蔵庫問題はどこの美術館もシビアであり今時は物価高もある。こちらの館は43年目を迎えて中長期計画というような話もあるのではないかと思うが、第二収蔵庫とか拡張は土地の問題もあると思うが、そういう話は出たりするのか。

事務局 おっしゃるとおり収蔵庫の収納状況は私共も重大な課題と捉えている。例えばどこか新しくアネックス的に建てるとか、民間の倉庫に美術作品を収納できるような仕様のところを作るもしくは元々そういう所をお借りする等の検討を進めているが、いずれにしても年間でかなりの金額を動かしていくことになり、倉庫を借りるとしたらランニングコストとして何年間もかかる

ということがあるので難しい面があるものの、引き続き検討を進めているところである。

委員 おそらくどこの美術館も頭の痛い問題で、中長期でも先に言っておかないと実現も難しい。

事務局 予算全体の優先度もあり、なかなか難しいが、発信していかなければならないと考える。

委員 6ページの指標のところについて、私も職場に帰ると指標に縛られる側であるので、大変ご苦労お察しする。

実は、私も自分の仕事の中で定量調査をやっていると、ある程度限界が見えてくることがあると思う。こちらの館でも定量調査なのかなと思うが、単純に感想になるが、例えば5のアンケートの満足度が非常に高く、それは非常に素晴らしいことだが、とは言え自らお金を払って見に来てくださっているので、誤解を恐れずにいえば高いのは当たり前。私共の番組もチャンネルを合わせて見てくださって、接触していただけると満足度は極めて高い。最近少し考えているところというところ、こういう定量調査は一定の限界があるので、行動変容を見るという調査をするのも良いかなと思っている。つまり、この展覧会に来て、じゃあもう一回来てみようとかあるいは自分で作品を作ってみようとか、何か参加した方の行動を変えるようなきっかけになっているかどうか、というような調査をしてみてもいいのかなど。単なる感想だと思っただいていいんですが。そうしていかないとたぶん満足度というのは結構限界に達するのが早くて、良かった良かったと言って、良かったねで、常に満足度が高い状態になる。実は私も仕事柄その先をどうするかなんてことが常に疑問に思っている中で、今回達成率100%という非常に高い数値を見てそうだろうなと思いつつ、定量ではなく質のところをどうやって見るかというところを独自項目の中で検討いただくというのも一つ今後あるのかなと思ったので発言した。

委員 来館者の行動変容の調査という提案もあったので、ぜひまた御検討ください。

エ その他

来館者数の推移などについて、改めてお気づきの点があれば事務局まで意見をお寄せいただきたい。

(以上)